

伊達市 おかいこ 用具 Vol.11

コレクションカード

おかいこ用具のいろいろ ～看板編～

伊達市保原歴史文化資料館は、伊達のお蚕様の歴史を学べる展示「伊達とお蚕様の本場物語」を開催しております。このコーナーでは、国重要有形民俗文化財指定を受けた伊達市所蔵のおかいこ用具をカード形式でご紹介します。

【あそび方】①切り取って集めよう（眺めるだけで楽しい!）

②説明を読んで学ぼう（展示の予習になる!）

③じゃんけん（左上）や、おかいこ度（右下）で競おう!



1 **グー**

じゅうしやうやわんかんぱん
受賞記念看板

たね やよこやませいじろう
梁川町の蚕種屋横山清次郎が
出品した繭が全国蚕繭蚕具品評会
にて金牌を受領、また内務省より
全国一等賞を受賞した記念に作成
した看板。大きさ縦 1.2 メートル、
横 0.9 メートル。明治 8 年作成。

No. 031

おかいこ度

2 **チョキ**

かんぱん だてしやあわのせう
看板「伊達社栗野村
足踏製糸器械場」

栗野村にあった「伊達社栗野村足
踏製糸器械場」に掲げていた看板。
足踏製糸器は伊達地方では明治後期
頃から導入され、従来の糸取り器より
も品質・効率ともに良く、器械製糸
と同等な質の糸ができたといわれる。

No. 032

おかいこ度

3 **パー**

かんぱん おきたけしょうてん
看板「大竹商店」

梁川町の蚕物商「大竹商店」の看板。
蚕物商とは繭・生糸・真綿などを取
り扱う商売人のこと。買い集めた繭
を加工して各農家に配り、糸取りや
真綿製造を依頼したり製糸会社から
委託され原料繭を集荷したりもした。

No. 033

おかいこ度

伊達な 国際交流員・ALT の つれづれコラム

vol.107



「自分の足で立つことを学ぶ」

Learning to Stand on My Own Two Feet

英訳版を
見る▶



日本の小学生は、自分で学校へ通ったり、放課後に友達と街で遊んだりすることが一般ですが、アメリカの子どもたちは全面的な問題から、10歳頃までは保護者なしで外出したり、一人で留守番することすら許されないことが多いです。一方で、アメリカ人は大学進学年齢になると基本的に自分で生活することが期待され、それ以降はほとんどの人が実家を出て親と一緒に住むことはありません。

ルニア州のサンフランシスコを選びました。大学1年目は新しい環境に慣れるまでつらくて涙に満ちた日々を過ごしました。また、私は、生活費や学費を自分で賄わなければならなかったため、昼間は働いて夜は授業を受けるといった生活をしていました。もう少し親に頼ることができたらよかったのにと考えたこともあり、しかしその経験のおかげで、ひとりで生活する力が身に付き、日本へ一人で引越すことができましたと思います。

今では自分でも親となり、同じように息子たちを突き放すなんてとてもできないだろうと感じています。家族の絆を大切に、親密な関係を保てる方法を見つけたかと思っています。(イボンヌ)

にじいろのだて (男女共同参画に関するさまざまな用語を紹介)

『アウトティング』… 本人の性のあり方を同意なく第三者に暴露すること。命にもかかわる重大な人権侵害であるという認識のもと、決して行ってはいけません。

